

音 楽 部 会

I. 研究の概要

1. 研究主題 子どもが主体的に表現できる授業のあり方
～共通事項を意識した指導法の工夫～

2. 研究主題設定の理由

これまで「共通事項」をふまえた授業について研究をすすめて、深まりがみられてきた。

今年度からの研究では、児童生徒が「主体的に表現する」ことに着目しようと考えた。豊かな表現力を身につけることによって主体的に表現することが可能になり、自分の思いや意図をもって活動できる。また、豊かな表現力を身につけさせるためには、共通事項（リズム・音の重なり・強弱など）を計画的に授業に盛り込んでいくことが大切である。

音楽の学びを明確にし、児童生徒が自分の考えや感じたことを自由に表現できるようになると「表現することの楽しさ」も味わうことができると考え、主題を設定した。

【今年度の重点課題】

共通事項「リズム、音の重なり、強弱」を踏まえ、歌唱・器楽・創作の領域をどう指導していくか。

3. 研究仮説

- 「共通事項」をふまえた授業研究をすることで豊かな表現力を身につけ、主体的に表現することができるであろう。
- 「共通事項」を計画的に授業に盛り込むことにより、主体的に表現することができるであろう。

4. 研究内容

研究内容1 〈小学校〉

「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」の指導法の工夫についての研究を行う。

研究内容2 〈中学校〉

「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」の指導法の工夫についての研究を行う。

研究方法 理論研修会・学習会・授業研究・実技研修会

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

小学校

(1) 中心グループによる研究経過

- | | | | |
|---|----------|-------------------|-------------|
| ① | 6月13日(火) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立大曲東小学校 |
| ② | 8月24日(木) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 研修センター |
| ③ | 9月4日(月) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立大曲東小学校 |

(2) 中心グループでの研究成果

低学年での鑑賞の授業をどのように行ったらよいかを提案することができた。「様子を音楽で」では、共通事項である「旋律・反復」に重点を置いて授業を組み立てることにより、体をつかって主体的に表現する児童の姿が見られた。それぞれの場面で、曲に合った身体表現を取り入れることで、児童に共通事項を捉えさせ、楽しく音楽を聴かせるための工夫について考えることができた。

中学校

(1) 中心グループによる研究経過

- | | | | |
|---|----------|-------------------|-------------|
| ① | 6月13日(月) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立西の里中学校 |
| ② | 8月24日(木) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 研修センター |
| ③ | 8月31日(木) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立西部中学校 |
| ④ | 9月1日(金) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立西部中学校 |
| ⑤ | 9月4日(月) | 第二次研究協議会研究授業指導案検討 | 北広島市立西部中学校 |

(2) 中心グループでの研究成果

行事などもあり、なかなか時数的にも厳しい現状で教科書に載っている曲を、曲調の変化を味わいどのように表現したらよいかを提案することができた。ワークシートの工夫、ペアワークのよさを生かして、思いや意図を持って表現する姿が見られた。音楽の要素がはっきりしており、いろいろな観点から取り組むことができる曲だと再確認することができた。

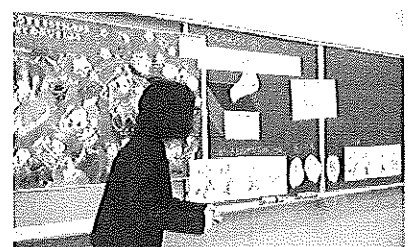
2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容

小学校

①授業公開の様子


- | | | | | |
|-------|--------|------------------|-----|-------------|
| 1年生 | 題材名 | 「様子を音楽で」 | 教材名 | 「おもちゃのへいたい」 |
| 授業者 | 佐伯 志帆 | 教諭 (北広島市立大曲東小学校) | | |
| 共同研究者 | 久田 舞子 | 教諭 (北広島市立大曲東小学校) | | |
| | 七ッ役 範子 | 教諭 (北広島市立大曲東小学校) | | |
| | 苔米地 幸子 | 教諭 (北広島市立大曲東小学校) | | |
| | 青木 都 | 教諭 (北広島市立大曲東小学校) | | |



本時の目標

- (1)「おもちゃのへいたい」を拍の流れにのって体全体で音楽を感じ取り、情景を思い浮かべながら、音楽を聴くことができる。

本時の様子

学 習 内 容	教諭の関わりと評価規準 具体の評価方法 ☆共通事項を知覚・感受するための手立て △目標に到達していない児童への支援 ◎具体の評価規準 【評価の方法】
1. 前時をふりかえる。 ・曲の冒頭を流し、曲名を思い出す。 2. 課題を確認する。 3. 教科書を見て、どんなおもちゃが出てくるのか、発表する。 4. 曲の冒頭部分で、おもちゃの兵隊が何をしていたのかを、メロディを歌いながら思い出す。 5. おもちゃの兵隊になりきって、楽器を演奏した身振りをしながら行進する。 6. 曲の途中に、色々なおもちゃが飛び出す部分（B）があることを知らせ、楽曲を聴きながらどの部分か挙手させる。 7. Aの部分再び出てくることに気づかせる。楽曲を聴きながらどの部分か挙手をさせて確認し、兵隊になりきって行進する。 8. コーダ部分では、行進ができなくなることに気づき、どんな場面か、想像し、動作化させる。 9. グループに分かれ身振りをする。 10. 学習をふりかえる。	<p style="text-align: center;">①きよくにあわせて、みぶりをしよう。</p> <p>・教科書の絵で、どんなおもちゃが出てきたか確認する。</p> <p>☆Aのメロディを何度か口ずさむ。(旋律) △Aのメロディを黒板に表示し、どの子も歌えるように配慮する。</p>  <p>・おもちゃばこから、兵隊が出てきて、行進する絵を黒板にはる。 ☆Aのメロディが出てきたら、挙手する。(反復) ☆Aの部分进行を歌う。(旋律)【挙手】 △Aのメロディを表示し、確認する。</p> <p>・コーダで曲の感じが急に変わったことに気づかせる。</p> <p>◎旋律の反復、コーダの部分の特徴などを聴き取り、拍の流れや音楽の特徴に応じて体を動かしながら、音楽を形作っている要素の関わり合いを感じ取って聴くことができる。 【曲想に合った体の動き】</p>

②授業分科会での協議内容

(授業者・共同研究者より)

- ・1年生という発達段階を考え、旋律が変わったところで挙手をさせる、曲に合わせて身振りをする点を共通事項「旋律・反復」に重点を置いて授業を組み立てることができた。

③成果と課題

- ・「おどるこねこ」での既習事項（A→B→A形式）を思い出しながら学習することができた。
- ・メロディーに歌詞をつけたことにより、旋律を口ずさむことができ、「反復」に気づくことができた。
- ・1年生の鑑賞の学習では、身体表現を取り入れて主体的に学習できる機会を持つことが有効である。
- ・教材教具（絵やお面、おもちゃ箱など）の工夫がなされていて、曲のイメージを広げることができ、児童が動作化する際の手助けとなった。
- ・鑑賞の時間なのでマナーを守り、様子を想像しながら静かに聞く時間も必要だった。

中学校

①授業公開の様子

3年生 題材名 音楽の要素を捉えながら「帰れソレントへ」
 授業者 浦嶋 史子 教諭（北広島市立西の里中学校）
 共同研究者 茶園 みさ子教諭（北広島市立西部中学校）
 本時の目標 ・歌詞の内容による曲想の変化（速度や強弱、転調など）を味わい、表現を工夫して歌おう。

本時の様子

	生徒の学習内容	教師の支援	評価の観点	共通事項
導入 5分	○「帰れソレントへ」を斉唱する。 ○前時の学習内容（歌詞の内容による表現の工夫）を確認する。	・歌い手の気持ちに合わせて速度や強弱が変化していることを確認する。		
	曲想の変化を味わい、工夫して歌おう。			
把握 見通し 追究 結果・表現 30分	○ペアで、ペアシートに記述した表現の工夫について打ち合わせる（速度、強弱の加減、歌詞の内容や曲想の変化による工夫など）。（5分） ○ペアシートを見ながら、ペアで表現を工夫して歌ってみる。（5分） ○ペアでアピールポイントを考える。（5分） 〈歌詞・気持ち・歌い方の工夫〉 例「…のところを、…な気持ちで…歌います。」 ○準備ができたペアから前へ出て、アピールポイントを説明し、発表する。（20分）	・とくに工夫するところや聴きどころをひとつ選び、聴き手にはっきりと伝わるような表現を目指させる。 ・表紙感や速度の変化を歌い手に合わせながら伴奏する。	【関心】歌詞の内容による曲想の変化（速度や強弱、転調など）に関心をもち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。（観察） 【表現】歌詞の内容や曲想に応じた発声や、曲想の変化を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。（観察）	◇速度 ◇強弱 ◇旋律
振り返り 10分	○速度や強弱を工夫した発表によるさについて考える。 ○曲想の変化を味わいながら、表現を工夫して斉唱する。	・工夫した表現を歌ってみて、または聞いてみて、どんな気持ちになったか考えさせる。		

②授業分科会での協議内容

（授業者・共同研究者より）

- ・自分の気持ちを表現することをメインに日本語で歌わせた。プレ研の様子を見ながら全員がみんなの前で発表する時間を設けた。

③成果と課題

- ・いろいろな考え方がありどちらが良かったかという答えはないが、子どもたちがより気持ちを表現して深く追究するという部分では子どもたちの頑張りも見られ、日本語で歌わせた良かった。子どもたちからも気持ちがこめやすかったという意見が出ていた。
- ・アピールポイント（気持ち）と技術が伴わない部分もあったが、大勢の前で緊張しながらも頑張った。

いた姿が見られた。

- ・歌詞の内容を考え、ペアワークのよさを生かして、思いや意図を持って表現する姿がみられた。

(2) 専門部会第二次研究協議会での協議内容

今年度は、前半に小中合同の合唱交流会を行った。後半は、子どもが主体的に表現することに焦点をあて、歌唱、器楽、創作の様々な領域の指導法についてレポート発表と、おすすめ教材の紹介を行った。レポート発表もおすすめ教材の紹介も今後の授業実践の中ですぐに取り入れられる内容のものが多く、有意義な学習会となった。

小学校

	市町村	交流内容
レポート発表	石狩	授業研 2年生「あの青い空のように」 石狩市立花川南小学校 杉山 尚史 教諭
教材紹介	江別	楽しいパートナーソング ・ロンドン橋+メリーさんのひつじ ・三匹のねずみ+フレール・ジャック ほか
レポート発表	恵庭	授業研 3年生「よびかけっこで森の音楽をつくろう」 恵庭市立柏小学校 阿部 郁 教諭
教材紹介	千歳	・さあはじめよう ・しりとりのうた・くりかえしことば・ことばあつめ ほか
紙面交流	当別・新篠津	・日常の実践交流

中学校

	市町村	交流内容
レポート発表	江別	授業研「様々な工夫をして表現豊かな合唱にしよう」 混声四部合唱「海の匂い」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
レポート発表	石狩	授業研「曲想を味わって」 混声四部合唱「次の空へ」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	恵庭	授業研「全体の響きを生かして」 混声三部合唱曲 「予感」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	千歳	授業研「構成を工夫して箏（こと）で表現してみよう（器楽、創作）」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	当別新篠津	授業研「日本の音楽に親しもう」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流

Ⅲ. 教育課程研究

1. 研究の経過

年間指導計画についての実践と検証を行い、各学校の実態に合わせた教育課程の編成について実践交流を行った。新学習指導要領についての研究に取り組んだ。

2. 研究の成果・課題

各学校の実践を交流し、指導方法について検証することができた。学校行事の取組を考え、学校事情に応じて柔軟に対応できるように指導計画等を検証することができた。次年度は、新学習指導要領についての研究を行い、教育課程編成に向けての研究を積み重ねていく。

IV. 実技・理論研修会

小学校

【実技研修会】

1. 研究の内容

6月8日(木) 13:35~16:30 北広島市立大曲東小学校
「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」
講師 野村 優子 氏



2. 研修会の成果

入学して間もない1年生の授業を公開していただき、子どもたちの実態に合わせた様々な指導を1時間の中で組み立てることを学んだ。研修会では、低学年中心の指導方法の工夫について実際に参加者が体験しながら学び、理解を深めることができた。

中学校

【実技研修会】

1. 研究の内容

7月10日(月) 13:20~16:30 北広島市立東部中学校
「中学校歌唱指導について~歌唱を通して豊かな表現力を高めよう~」
講師 北海道教育大学旭川校 杉江 光 氏

2. 研修会の成果

3年生の「時の旅人」「決意」を通して、合唱指導法について学んだ。生徒たちをより前向きに合唱に取り組ませる働きかけかたを学ぶことができた。後半は、歌唱指導の実技を行った。

日本語の語感を大切に、母音を開きすぎない、たてに発音するなど実際に体験しながら合唱指導のポイントなど具体的な方法を学んだ。

V. 部会研究の成果と課題

【成 果】

- ・小学校では、「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」を研究主題として、1年目はリズムづくり、2年目は第二次研究協議会での鑑賞の研究授業があった。「共通事項」を指導案に位置づけ、計画的に授業に盛り込みながら学習を進めることで、課題が明確になり、指導過程の工夫や教材教具の準備がしやすくなった。2年間とも1年生の研究授業だったので、主体的に表現できるようにしかけていく低学年を中心とした授業づくりについての研究が深まった。
- ・中学校では、2年続けて歌唱指導の研究授業を第二次研究協議会で行った。小学校同様「共通事項」を指導案に位置づけ、曲想の変化を感じ取り表現の工夫について考えさせた。教科書で扱われる曲を積極的に歌わせることが難しい中、主体的に取り組みせ、子どもたちが生き生きと活動する授業づくりについて研究を深めることができた。

【課 題】

「共通事項」を意識した指導法の工夫について研究をしてきた。小学校では、リズムや鑑賞を中心に、中学校では、鑑賞・歌唱の研究を深めてきた。2年間の研究を通して「主体的に表現する子ども像」を部会の中でしっかりと定義づけすることができた。

これまで身につけた力を活用し、自分の感性を働かせ、生活や社会と関連づけながら、主体的・対話的・協働的な学びができるような授業を実現していかなければならないと考え、これからも研究を進めていきたい。

(文責 小田桐 千夏・渡辺 裕子)